

編集後記

会報 10 号を発行いたしました。巻頭言、論壇に加えて、2008 年 3 月に開催されました第 9 回シンポジウム「植物育種の現在・未来と大学の役割」の録音記録も併せて掲載いたしました。116 ページの大部になりましたが、是非お読みください。

私事ですが、先日、多摩川の羽村の堰から四谷まで玉川上水 43 キロを 4 回に分けて歩きました。実際に歩いてみて、自然の川は低いところを流れているのに対して、玉川上水は尾根筋の比較的高い所を選んで造られていることが分かりました。家内の実家が笹塚にあり、四谷を目指す玉川上水が笹塚で甲州街道から大きく南に迂回したのち、初台あたりでまた甲州街道沿いに戻ってくることの謎が解けました。それは幡ヶ谷の窪地を避けるため、等高線に沿って迂回したのだということです。歩いて見てはじめて玉川上水は高い所を流れていることが実感できましたが、研究をしていてこれと似たこと経験をすることがあります。頭で考えると結果はわかりきっているので実験するまでもないと思っていたことでも、いざ実験をしてみると思いもしない結果が得られることが間々あります。むしろこのような時の発見のほうが大きなブレークスルーに繋がることが多いように思います。

玉川上水が尾根筋を通ったことの利点の一つは、南北方向に分水が容易に出来たということです。玉川上水の本来の目的は江戸に飲料水を送るためでしたが、その実かなりの水が田畑用に分水されていたのです（これを用水と言い区別していました）。実際は武蔵野台地の灌漑用水として、農業の発展に大きな貢献をしたわけです。「あなたよりずっと大きな貢献を農業の発展のためにしているわね」、と一緒に歩いていた家内に言われました。反省。

次の会報 11 号は来年 5 月の発行を予定しております。会員の皆様による論壇への投稿をお待ちしております。

(會田勝美)